

意見交換会の概要

イベント名：学生×市長 #未来のわたしと未来のまち
 目的：次期長野市総合計画の策定にあたり、将来を担っていく世代である学生と意見交換し、計画策定の参考とする
 開催日時：令和7年8月19日（火）16:30～18:00
 会場：清泉大学 長野東口キャンパス
 参加者：長野市と連携協定を締結する高等教育機関の学生15名、荻原市長

意見交換会の内容

1 市長あいさつ

- ・何かを成し遂げるためには計画を立てたうえで、取り組みを進める必要がある。
- ・長野市のまちも計画に基づいて様々な取り組みが行われており、令和9年に総合計画の見直しの時期を迎える。
- ・未来の長野市を作っていくのはここにいる市内の学生の皆さんである。誰にとっても育った場所はかけがいのものだと思う。だからこそ、皆さんにとってより愛着の持てる長野市を目指していきたい。
- ・本日は、将来、どのようなまちが求められるか皆で気楽に話せたらと思う。



2 アイスブレイク

- ①参加者の共通点探し
 ～4人グループでワーク～
 ～見つけた共通点を会場内で共有～
 グループA：“遊び場所が長野駅周辺” 友達と駅前集合し、駅ビルで買い物したりカラオケに行く。
 グループB：“皆長野が好き” 自然が豊か。人との繋がりが多い。祭りや行事が多く人が集まった時のお祭り感が好き。
- ②市長が10年前の自分を振り返って
 ・10年前は市長になると思っておらず、長野市を拠点にスキー指導者としてオリンピック選手を育成していた。
 ・30年くらい長野市を拠点に生活しており、自分を育ててくれたまちであり、このまちのために何かしたいという想いを持っていた。
 ・国会議員時代に東京で受けていた行政サービスに比べ、長野市の水準がやや低いと感じたこともあった。例えば、子供のことで市役所に問合せると色々な窓口で回された経験があった。皆さんが生活している中で、純粋にこうなったらいいと感じていることを率直に教えていただきたい。

3 意見交換

- ① テーマ「未来のわたしについて」
 ～ペアでワーク～
 ～意見交換～
 学生：好きなこととして生きたい。仕事をしながらも心にゆとりのある生活をしたい。または、好きなことを仕事にしたいという考え方もある。
 市長：私は好きなこととして生きているので共感する。そのためか健康診断の数値が数年前に比べて改善している。
 学生：まちを歩いていて色々な人に声を掛けられたい。例えば、スーパーに行ったら知り合いに会って会話を楽しむ人になりたい。私の父がそんな人なので憧れている。
 市長：地域や人との関わりやコミュニティが薄れつつある社会の中で、素敵な意見だと思う。
 学生：地元で生まれたので地元で貢献したい。お盆に祖父母の家に行き皆で過ごしたり、文化祭で地域の人に協力して貰ったりと、様々な人が自分を支えてくれると感じる機会がある。そういった方に恩返ししたい気持ちがある。
 市長：涙がこぼれそうです。人との繋がりが薄れつつある中で、行政のみで地域を良くすることは難しい側面がある。
 学生：自分の地域のお祭りにもっと関わりたい。住んでいる地域が人口減少で、お祭りの規模が縮小している。お祭りの魅力は、みんなで目標に向けて取り組むところだと感じる。

- テーマ：「未来のわたしと未来のまち」
 ～将来（10年後）の理想の自分を想像してください。理想の自分を実現するには、どんな“まち”に住みたいですか？～
 ツール：チャット形式のツールを使用。学生は、グループやペアで話した内容を、随時、チャット形式で書き込む。
 会場内の傍聴者は、二次元コードから自身のスマホで書き込みを閲覧し「いいね」のリアクションを送ることができる。

- 市長：この夏、市内中の祭りに参加し、つくづくいいなと感じた。老若男女、誰もが集まり楽しめるところに魅力を感じる。祭りは、地域づくりの面でも大切だと改めて実感させていただいた。
 学生：日本を支える技術者になりたい。住みやすいまちは何かと考えると、電力やITなどのインフラが不可欠だと思う。
 市長：我々の生活はインフラ無しには考えられない。ぜひ今学んでいることを将来に活かしていただきたい。
 学生：小さい2拠点生活をしたい。現在は長野市の学生であるが、将来は地元の東京に帰る予定である。けれど、東京のみで生活するのではなく、週末は長野市で暮らしたい。

- ②「未来のまちについて」
 ～ペアでワーク～
 ワーク中の市長と司会者の雑談
 司会：チャットの中に、サードプレイスが大切というコメントがありますが、長野市では例えばどのような場所があるか。
 市長：民間施設ならスターバックス、公共施設では図書館に私はよく行く。そういう場所を今後増やしていきたい。

- ～意見交換～
 学生：同じモチベーションで頑張る人がいる環境。部活動や勉強など仲間がいるから頑張ってきた経験があり、これからもそうした環境に身を置きたい。
 市長：私も同じ考えであり、特にスキー選手時代はそうだった。一方で、長野市全体で見たときは、選手として頑張りたい人達、趣味で楽しみたい人達など、多様な集団があることが大切だと思う。
 学生：公共交通利便性の向上。塩尻市から通学しているが、電車の遅延が度々ある。また運行本数も多くないと感じる。
 市長：市内の特に自然の豊かな地域にお住まいの方から路線バスの運行本数が少ないことや路線がないことについて、改善要望がある。市としてできることを事業者とも話しながら考えていきたい。すぐ先の将来ではないが、空飛ぶクルマが長野市に増えると思う。河川上が飛行ルートになる点で本市の地勢が有利になる可能性がある。
 学生：人との関わりを大切にするまち。大学生になって一人暮らしを始めた頃、コロナが流行っていたこともあり、人と関わらずに生活していた。コロナが明けて人と関わりが増えると、自分の知らなかった自分に気づく機会が増え、人と関わることの大切さを認識した。
 学生：同じく人との関わりを大切にするまち。学内での関わりもあるが、他校の学生や他のコミュニティと関わる機会が多いと生活が豊かになると思う。
 市長：そもそも人類は人と関わり集団を形成する本能があったから、ここまで進歩してきたと思う。人との繋がりが希薄になりつつあるが、本当に一人になってしまったら、生きたいという感情が沸かなくなってしまうと思う。
 学生：低価格で運動できる場所が欲しい。小さいころからバスケットボールに打ち込んできた。高校までは学校に体育館があったが、大学生になってからは外部の体育館を予約して借りないといけないこともある。
 学生：のびのび運動できる場所が欲しい。陸上競技を大学生までしてきて、この先どのように運動しようか考えた時、長野市は屋外でウォーキングしている方が多いと感じる。皆で運動するコミュニティもあったらいいと思う。
 市長：市内の体育館の予約方法はもう少し改善の余地があると考えている。体育館を利用したい方が多く、ニーズが大きいことを感じている。体力づくりで言えば、私は自宅で懸垂している。ロッキーの映画のような体力づくりもあるが、設備環境を整えることが重要だと考えている。
 学生：人との関わりについて、教育学部に通っており、子供と接する機会が多い。子供を育てやすい環境が身近にあると安心できる。また、高齢者の方の移動手段が少なくなってきたと感じる。子育て世代も高齢者も安心して暮らせる環境を作ることが必要だと思う。両親が仕事中的子供の居場所として、身近な公園や児童館があると、子供のコミュニティができ、その中で学ぶことも多いと思う。
 学生：近所の人と繋がりがあることも、安心な生活に結び付くと思う。
 学生：信濃毎日新聞の次期市長選に向けて未来のまちづくりを考える企画に参加している。長野駅前の再開発により千石劇場が無くなってしまったことを受けて、存続を望む署名がたくさん集まったことを知った。地元の人達に愛されている施設だと分かり、職場や学校ではないサードプレイスが長野市にもっとできたらと思う。



4 市長の総括コメント

- ・本日皆さんと話をして、すごく勇気が出たと感じている。
- ・私なりの解釈だが、皆さんがまちづくりに参加したい、人と関わりたい、色々やらせて欲しいと考えていると感じた。
- ・皆さんの熱意やエネルギーを受け止めさせていただいて、将来に繋がる長野市のまちづくりをしていきたい。